

大河原町まち・ひと・しごと創生総合戦略策定のための住民懇談会での  
意見・要望とその回答

【第1回】

日 時	平成 27 年 7 月 24 日（金） 午後 7 時～8 時 30 分
場 所	大河原町役場大会議室
参加者	9 名
出席者	伊勢町長、大野副町長、事務局（企画財政課）

意見・要望	回答
<p>○男性</p> <p>①企業誘致について、企業が要望する水・電気・交通の便や工場緑地法の規制などで利用できる土地は限られるが、川根にはそれだけの土地があるのか。魅力ある工業団地にする必要がある。</p> <p>②企業が進出する際、働く人も一緒に連れてくるのを食い止めないと地元雇用につながらない。</p> <p>③30 数年前関東からの移住先を相談したところ、県南では大河原と言われた。当時から評価は高かった。町境のゴルフ場を見られる所に住宅地を造成したり、駅前から直線的に道路を通したりしてはどうか。</p>	<p>①川根は町の所有地と民有地を合わせると 3.5ha とかなり広い。既存の企業とタイアップして有効活用し地元の雇用に結び付けたい。他町の団地と違い非整形地であるが、現在ライフラインも整いつつあり、企業に進出してもらえるよう話し合いをしている。</p> <p>②町民を採用したら補助金交付なども考えている。</p> <p>③高い評価を受けているのはありがたい。住宅地については他の要望もありすぐにはできないが、人気にあぐらをかかず研究していきたい。</p>
<p>○男性</p> <p>①企業誘致の目標数値はないのか。</p> <p>②参加者が少ない。町が本気でやっているか心配になる。町民の意見を吸い上げる機会にはお粗末である。</p>	<p>①用途地域のしぼりもあり何社もとはいかない。地縁血縁も使って誘致を図っていきたい。</p> <p>②参加しやすい時間。場所を考えているが、参加者が少ないのは事実であり、今後も努力する。</p>
<p>○男性</p> <p>①たくさんの事業が盛り込まれているが金は国からでるのか。町だと税金に跳ね返るのが心配。</p> <p>②地方には仕事もない、あっても人材派遣ばかりの状態、東京圏から 6 万人地方に人を流すとあるができるのか。結婚ができないのは原因に非正規社員が多く将来が不安だからという面がある。国が何とかしないといけない。</p>	<p>①国からの支援があるが、金額の明示はまだないので町としても注視している。</p> <p>②国の総合戦略の目標として、東京圏から地方への移動が 6 万人増、地方から東京への流入を 4 万人減という目標をもち進めていくというものである。</p>

○男性

①大河原町では50年前から「町は住むところ」として職場は仙台圏に求め、インフラなど住宅地形成を行ってきたのはすばらしい。企業誘致については、他町を見ても30～40年で企業が入れ代わっており、どこを誘致するかよく考えてほしい。

②大河原は昔から商人のまち。先人は紅花などを遠く大石田まで行って商ってきた。桜まつりのボランティアガイドではそのあたりの話をしたらとても喜んでもらった。商人のまちらしい動きが起きてほしいと思う。

①いくつかの企業から進出を打診されており、本町の交通の利便性などから注目されているのではないかと期待している。産業構造も考えながら、今後もトップセールスに取り組んでいきたい。

②町民学園では、町をPRできる人材づくりのため、4月に刊行した「大河原の先人集」などを活用した「大河原学」の教室をつくり、そのかたにガイドのありかたやマナーを「マナー教室」で学んでもらい。希望者に観光ボランティアになってもらいたいと考えている。町を英語でも紹介できるような国際的なガイドが生まれるようがんばりたい。

## 【第2回】

日 時	平成 27 年 7 月 25 日（土） 午前 10 時～11 時 30 分
場 所	世代交流いきいきプラザ多目的ホール
参加者	9 名
出席者	伊勢町長、大野副町長、事務局（企画財政課）

意見・要望	回答
<p>○男性</p> <p>①町の特徴をどう考えているか。</p> <p>②桜以外に何を案内すればよいか困った。23 ページに宝探しの話があるが、宝物は埋まっているものと、目の前にあるものを探す目線が必要と考える。</p>	<p>①周辺の町に比べ本町人口減少が少ないのは交通の便など住みやすさだと思う。 地方創生のカギは地方の拠点都市づくりである。東京など大都市の合計特殊出生率が低いのは働く若い女性が結婚しないからで、働き方を改善することと地方拠点都市が人口流出のダム機能を果たすことで少子化と人口減少は克服できるのではないか。その役割を仙南広域で担うことを考えていきたい。</p> <p>②桜は 100 年前からだが、梅は千年前から町の名物であり、産業振興にも役立てたい。また、いつでも花が見られる場所も作っていきたい。宝探しは、目に見えるもの以外に歴史的なものもある。町民学園などを通して町民共有の認識向上を図っていきたい。</p>
<p>○男性</p> <p>①柴田町の千桜橋の影響で今年の桜まつりの観客数は減少したのか。</p> <p>②新たな散策路を考えてほしい。</p>	<p>①去年に比べ 2 万人減少したが天候によるものと考えられる。イベント開催日の人出は過去最高で、橋はむしろ大河原町にとってプラスだと思う。</p> <p>②駅前に絶景ポイントを巡る 4 km のウォーキングマップを設置したので、周辺景観改善とともにトイレ・休憩ポイントを作って、黙っていても歩きたくなるように取り組んでいきたい。</p>

### ○女性

①何でも無料にするのではなく、ある程度経費はもうやり方にすべきではないか。子育て中の親も無料が当然になり有料だと寄ってこなくなる。また、親の大変さ、子育て中の苦労を企業側が理解することと、その質の向上を呼び掛けていくことが必要と思う。

②介護が必要になったとき、すぐ施設に入れるだけでなく、在宅でできることの啓発を押し進めたい。各種サービスを受けつつできることをアピールしてほしい。

また、在宅で最後まで看取った場合、町からの感謝状など出せないか。家族としては、「大変でしたね」という気持ちが伝わり、がんばりを認めてもらうだけでずいぶん違う。

### ○男性

①策定予定の11月には盛り込まれた政策が実行できるのか。

②地場製品のブランドづくりで町と連携したプロジェクトなどはあるのか。

①町ではワークライフバランスを重視し、企業にも呼び掛けていく。社会全体で働き方を変えないと、がんばった地域とがんばらなかった地域があるのでトータルでは変わらないことになるので、家族に優しい働き方が当たり前になるよう雰囲気づくりを行っていきたい。

②第6期介護計画でアンケートを取ったところ、要介護度3以上のかたの半数程度は在宅介護を希望している。これを応援するシステムを作るとともに、さらに何ができるか検討したい。

①議会の承認も必要であり、すぐにではないが、協議しながら進めていくことになる。

②ブランドについては梅を考えている。「大河原」ブランドでは知名度が低いので仙南広域で共通して「蔵王」ブランドを使えないかと考えている。

## 【第3回】

日 時	平成 27 年 7 月 25 日（土） 午後 2 時～3 時 30 分
場 所	幸中島集会所会議室
参加者	9 名
出席者	伊勢町長、大野副町長、事務局（企画財政課）

意見・要望	回答
<p>○男性</p> <p>①災害のない町の PR を。また、工場誘致より住みやすさで人を流入させる方策を考えた方がいい。柴田郡 3 町でプロジェクトを作っては。創生会議のメンバーの有識者とはどんな人が選ばれているのか。</p> <p>②「大河原のうまいものは」と聞かれ困った。食事は旅行の成否を左右するのでぜひ考えてほしい。通訳など町の観光ボランティア充実を。せっかく見るところがあっても説明できないのでは残念。町には空き家が多いので借りて住ませれば住民が増える。町で住宅を建てても住民を増やすことを考えてはどうか。</p> <p>○男性</p> <p>①子育ての要望が多いので、これに重点を置けば必然的に人が増える。大河原町は「住むところ」であることを最優先に整備すると思う。</p> <p>○男性</p> <p>①庁内 PT はとてもいいと思う。どんどん声を上げ活用してほしい。体育施設が分散していると使い勝手が悪く災害時にも効率が良くない。桜まつりで弁当売店や食べる場所、駐車場がないと言われる。オーガを活用したらどうか。高齢化や地域活性化対策のために、社会教育の充実を図ってはどうか。ただ現在の公民館は狭い。お年寄りが生き生きと暮らせるまちづくりを。</p>	<p>①交通の要衝であるなど町の長所を PR するとともに、広域連携についても考えていきたい。創生会議の委員には会社経営者、大学教員、宮城県、金融機関などまちの課題について見識を持っている人に頼んでいる。</p> <p>②これまでの企画は長続きしていない。今後も検討したい。観光ボランティアは町を知り尽くした人を養成しその人をお願いしたい。移住については住宅を新築した新住民に助成するなど住みたくなる制度を考えたい。</p> <p>①子育てや結婚を支援するには、企業を含め社会全体の働き方の改善が必要。町でもその支援を行っていきたい。</p> <p>①スポーツ人口は減っており、子どもたちも 20～30 年前より歩かなくなって心配している。お年寄りを元気にするために「歩きたくなるまちづくり」を考えている。桜まつりについては業者の手が回っていないのが実態だが、努力してやっていきたい。公民館整備をすぐやるのは難しいが、いきいきプラザの知名度が低く使われていないので周知していきたい。また、公共施設総合管理計画のなかで検討していきたい。</p>

<p>○男性</p> <p>①桜まつりの大型バス駐車場が不足している。大河原橋の川上の河川敷を整地すればいいのでは。</p> <p>27 ページの若者の巡り合いイベントを早めにすすめてほしい。</p> <p>○男性</p> <p>①大河原町は交通の利便性など住環境をいかに整備していくが重要ではないか。それには町内の実業高校の専門性を活かしたり隣町との連携を進めたりしていかないと難しいと思う。大河原町が拠点でなくても、人の流れをつくることによって収入を得、活性化していく。角田や村田は農産物生産、大河原で加工など、連携する必要がある。</p> <p>②若者と高齢者の交流の場をつくってほしい。いきいきプラザでは限られるのもっと住民同士の心をつなぐ場を要望する。</p>	<p>①駐車場については土木事務所と詰めているところで、今後一層力を入れたい。</p> <p>また、婚活イベントをすすめていきたい。</p> <p>①町の強みである住環境を良くしていきたい。</p> <p>また、町内では3次産業は飽和状態なので、2次や1次産業などで大河原でもやっていける産業活性化に取り組み、働く場所がないという声にこたえていきたい。</p> <p>広域連携については、仙南の間伐材を利用した水素製造プラントや蔵王ブランドの共有を考えている。</p> <p>②PT で視察した新潟県見附市では、1年半かけて行政区をまとめた学校区単位でコミュニティをつくり、絆を深めている。時間をかけて活性化のきっかけづくりをしたい。</p>
---	---

## 【第4回】

日 時	平成 27 年 7 月 25 日（土） 午後 5 時～6 時 30 分
場 所	金ヶ瀬公民館研修室
参加者	8 名
出席者	伊勢町長、事務局（企画財政課）

意見・要望	回答
<p><b>○男性</b></p> <p>①中学生ですでに結婚願望が低いという報道があった。学習機会の提供やアンケートをとって見たらどうか。 仲人会を作りお見合いを促進する必要はないか。 町民バス運行や産婦人科の誘致を要望する。</p> <p>②空き店舗が増えているが、滞納などの問題が起こる心配があるので行政として借り手を募集、契約したら貸し手も安心できるのではないか。</p> <p><b>○男性</b></p> <p>①以前文部省の方針で社会科や理科を減らし道徳をなくした結果、自然科学の知識レベルが低く、相手のこと、地域のことへの考えが及ばないから結婚感ももたない人が増えた。教育の根底からやらないと少子化は治らないと思う。</p> <p>②音楽ホールなど国・県レベルのハコモノをつくってほしい。</p> <p><b>○男性</b></p> <p>①仕事が一番と思うので、大企業を誘致し町民を雇用してくれることを望む。 地場産品を農家が集まってやれる大きな施設があればと思う。</p>	<p>①結婚したくてもできない人が多いのは、収入が安定せず、養っていくことへの不安からで、町だけではなく国・企業、県南全体で取り組む必要がある。 町民バスについては「デマンドタクシー」が 3 年目で実績を踏まえながら検討していく。 産婦人科は中核病院があるので充足していると思うが足りなければ誘致を検討したい。</p> <p>②空き店舗対策にどこまで町が入っていくかは検討していく。</p> <p>①社会を成り立たせるためには結婚しない人が増えると「自分たちが困る」ことを理解させる教育も必要と思う。。</p> <p>②えずこホールなどあるものを活用したい。特に楽器演奏は健康にいいので、関連イベントなどそういう仕掛けをつくっていきたい。</p> <p>①若い人が都会へ出ていかないためにも雇用の確保はとても大事。川根にも進出の打診があるので進めていきたい。 地場産品のブランド化についても総合的に進めていきたい。</p>

## 【第5回】

日 時	平成 27 年 7 月 26 日（日） 午前 10 時～11 時 15 分
場 所	総合体育館研修室
参加者	1 名
出席者	伊勢町長、大野副町長、事務局（企画財政課）

意見・要望	回答
<p>○男性</p> <p>①柴田町側の桜の老木には支えがあるが大河原には少ないことを指摘される。</p> <p>②急患センターは好評だし、中核病院と合わせもう少しまちの医療・福祉はすごいと PR しては。</p> <p>③食のイベントをやってほしい。</p> <p>④先日角田の企業が当区に作る有料老人ホームの説明に来たが、入所費用が高い。町でもっと低額な施設は作れないか。また、中核病院の医師等にも協力してもらって生活支援してもらえれば、一番大事な「安心してらせる」町になるのではないか。</p> <p>⑤生活の安定には終身雇用は大きな魅力。私の関係する事業所の就職面接でも最初に「終身ですか」と聞いてくるほど。</p>	<p>①本町でも樹木医に診てもらっている。支えについては今後検討したい。</p> <p>②医療の強みに加え体育館やえぞホールがあり、ゴルフ場や仙台に近いことも PR したい。</p> <p>③ぜひやりたいので検討したい。</p> <p>④札幌で街中の空き家を利用し 2 階が学習塾、1 階はグループホームにしたら交流が始まり大人気という話もある。コンパクトシティ、まちなか活性化につながると思う。</p> <p>⑤アンケートでも雇用関係が注目されており、極めて大事な問題であると認識している。</p>

## 【第6回】

日 時	平成 27 年 7 月 26 日（日） 午後 2 時～3 時 30 分
場 所	大河原町役場大会議室
参加者	5 名
出席者	伊勢町長、大野副町長、事務局（企画財政課）

意見・要望	回答
<p>○男性</p> <p>①Next 大河原ゆめプランと重複している課題の考え方は。</p> <p>②財政的シミュレーションについての考えは。</p> <p>③アンケート対象者に高齢者が入っていないが、高齢者自身の支援の考え方を聞かないのか。</p>	<p>①ゆめプランで掲げる 6 つの重点課題にその 7 番目として加えるもの。重複についてはそれを強化したり変更したりしていく。盛り込んだ事業すべてを行うわけではなく、今から取り組まないと対応が難しい項目から特に効果的と思われる事業を選択していくことになる。</p> <p>②国からの交付金額が不明で財政計画を立てることは難しいが、一般財源で対応するものも含め国の動きを見極めながら対応していく。</p> <p>③アンケートについては将来を考え若い層の意見を重視したもので、戦略には高齢者の生きがい対策や力を借りたい事業も当然含まれる。</p>
<p>○男性</p> <p>①合計特殊出生率の分析が足りないのでは。</p> <p>②マスコミでは若い男性の性向を「草食系」などというが、それはこれまでの育て方、育てられ方に問題がある。親が子ども会や区会に参加しないなどはその延長ではないか。人口だけでなく、人生に対する積極性を教育する必要がある。</p> <p>③大河原町は昔から情報の町と思うが、商店街はその特徴が活かせていないと思う。施策に情報政策を入れる必要があるのではないか。</p>	<p>①合計特殊出生率の低さは、結婚できた人とできない人に 3 割以上のギャップがあることからきている。その差を埋めるのは働き方を改善し結婚を促進することで達成できると考える。</p> <p>②個人を大事にしすぎた教育の行き過ぎという意見もあった。小中学生にも指摘のあったことを教えていきたい。</p> <p>③創生会議のメンバーに ICT に詳しい委員二人に入ってもらっているので、いろいろアドバイスをもらっていきたい。</p>